

2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 6)ブルーカーボン・ブルーインフラ及び再生可能エネルギーの導入

- 本港地区及び鬼脇港区において、港湾施設整備時や老朽化対策の実施とともに、環境(脱炭素化)に配慮した対策として、ブルーカーボン技術やブルーインフラの導入を実施する。
- ブルーカーボン技術としては、大磯地先水面で実施している「利尻富士町のリシリコンブを活用したBC事業」に加え、本港地区ではウニ籠養殖と連動した海藻海面養殖、鬼脇港区では、ナマコ増養殖におけるウニ殻を活用した低炭素藻礁等が考えられる。
- ブルーインフラ技術としては、外郭施設整備時に背後盛土を造成することで、藻場創出機能の付加や二酸化炭素吸収源の拡大等が考えられる。
- このほか、EV充電設備、充電設備の補助電源用としてフェリーターミナル屋上への太陽光発電設備の導入等、再生可能エネルギー活用を取組を推進していく。



資料: 苫小牧民法HP

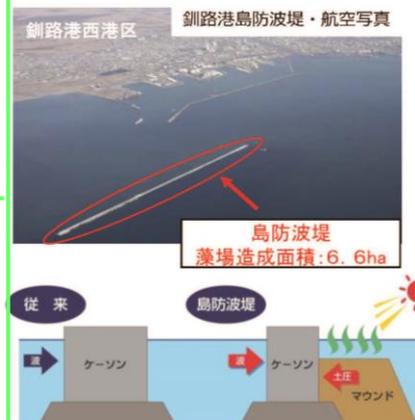


港湾活動における再生可能
エネルギーの活用事例



本港地区で想定される脱炭素化への取組

- 浅場造成による新たな水生動植物の生息環境創出
- 浚渫土砂の有効活用によるコスト縮減と環境負荷低減



釧路港におけるブルーカーボン・ブルーインフラ事例

2.2 施設配置計画の検討 (2)水域施設計画 1)ウニ・コンブ等の増養殖

○近年、高水温等により、水産物の不漁・高騰が続いていることから、観光客への安定的な提供及び漁業就労所得の確保に向け、外郭施設港内側の静穏水域を活用して、本港地区ではウニ・コンブの増養殖、ヒラメの蓄養施設を活用した増養殖事業、鬼脇港区ではナマコ等の増養殖対策を継続的に実施していく。



防波堤(南外)背後の静穏水域におけるウニ籠養殖



鴛泊大磯地先水面におけるブルーカーボン事業(コンブ養殖)



ウニやコンブの増養殖

ヒラメの蓄養

ヒラメ蓄養施設を利用した増養殖事業(昆布どぶ漬け、ナマコ採苗等)



ナマコの増養殖

北防波堤

南防波堤

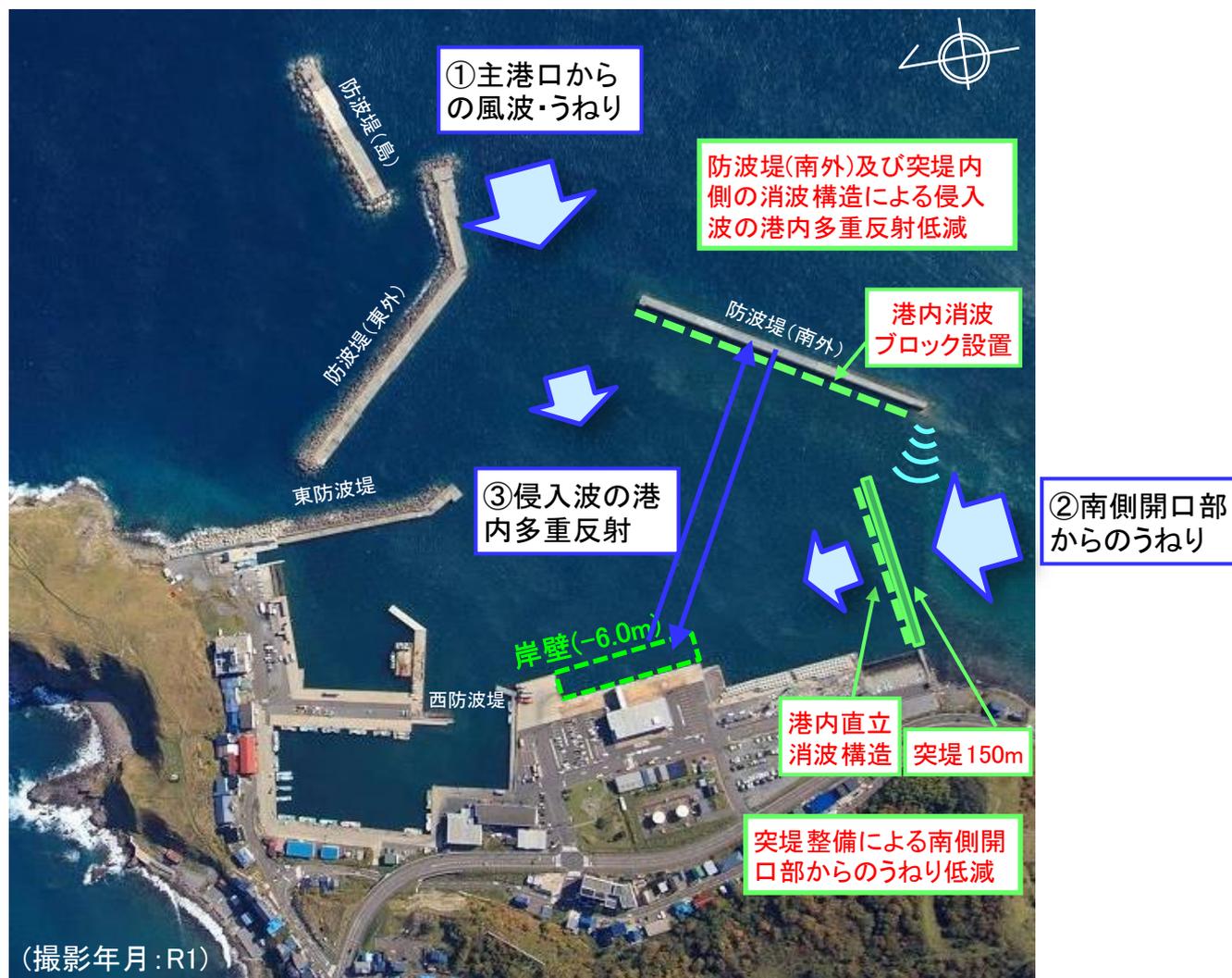
静穏域だが、水深不足に伴う掘削等、課題への対応方策は実際の取組時期に検討

潤内静穏水域におけるナマコの間育成(砂地の上に割石を置いて底質改良)



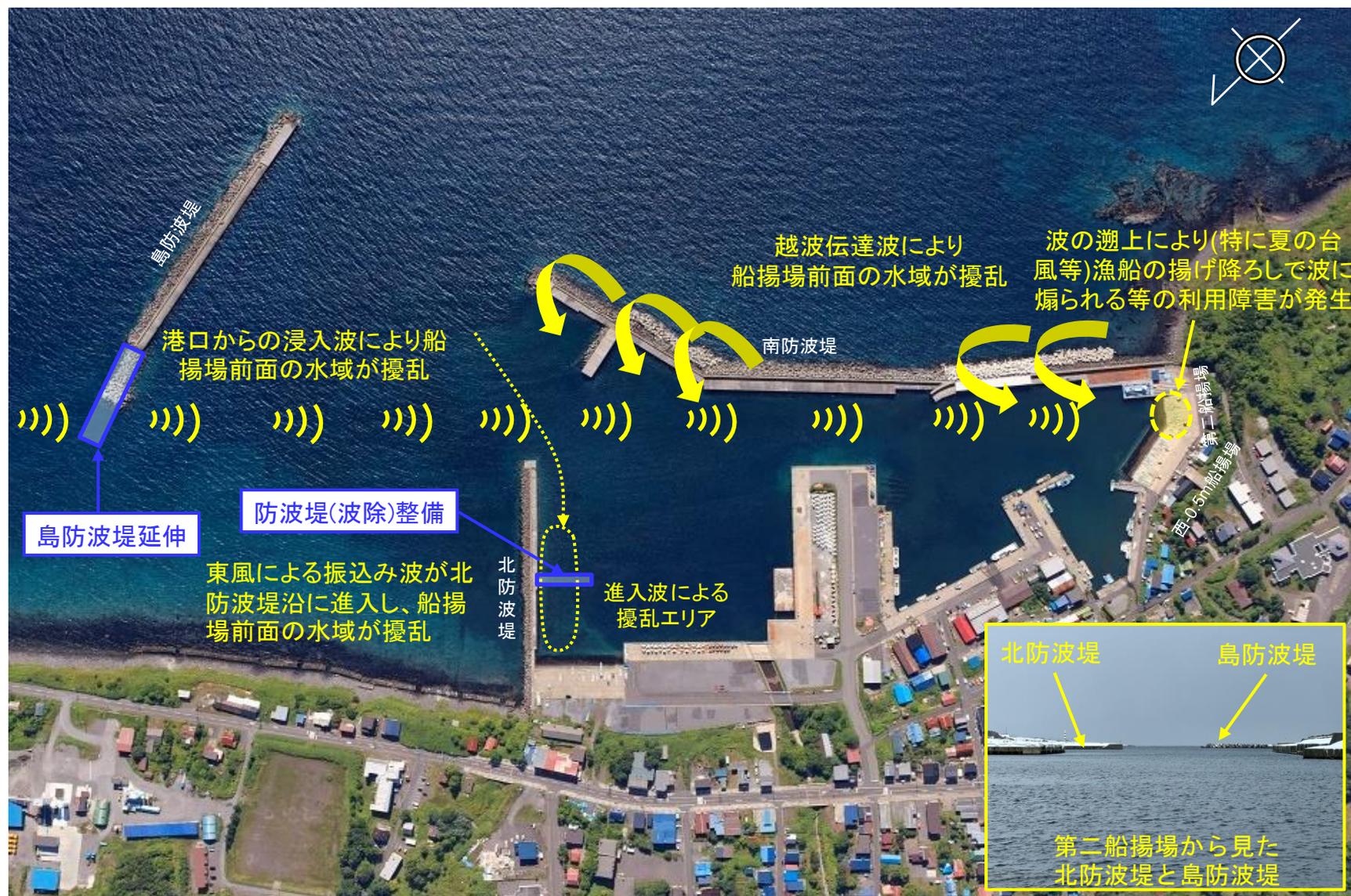
2.2 施設配置計画の検討 (3)外郭施設計画 1)フェリーの船体動揺対策

○フェリーの船体動揺対策として、フェリー航路の港口幅を狭めることは困難であることから、突堤150mの整備により南側開口部からのうねりの浸入を防ぐとともに、防波堤(南外)及び突堤内側の消波構造により侵入波の港内多重反射を低減させる。これにより、BBの使用中止日数が18日/年程度から9日/年程度と低減することが期待される。



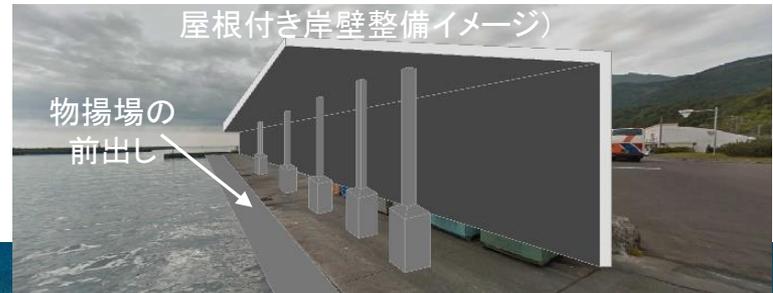
2.2 施設配置計画の検討 (3)外郭施設計画 2)防波堤(波除)整備及び島防波堤延伸

○ 鴛泊港(鬼脇港区)における静穏度確保のため、防波堤(波除)の整備や、島防波堤の延伸等、外郭施設整備を進める。



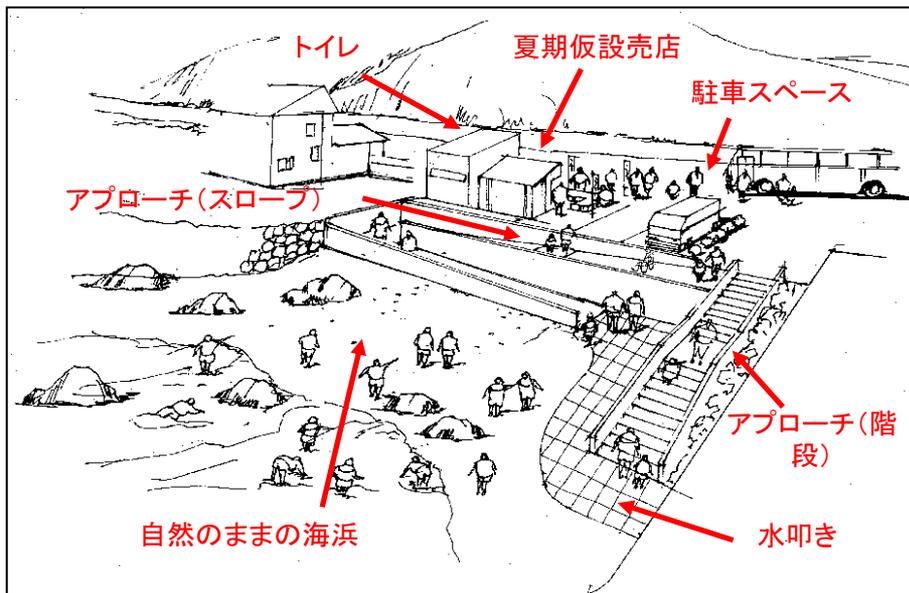
2.2 施設配置計画の検討 (4)小型船だまり計画 1)漁業活動における衛生管理と輸出促進

- 本港地区では、ウニ、ナマコ、昆布等が海外に輸出されていることから、屋天環境における水産物への直射日光や雨の影響、鳥糞・食害等を回避し、衛生管理面の向上による輸出促進のため屋根付き岸壁を整備する。また、漁業活動におけるフォークリフト旋回スペース確保のための物揚場の前出し改良を行う。
- 利尻富士町は、令和6年11月、台湾屏東県琉球郷と友好交流協定を締結し、特産品のマーケティング促進として、今後の水産物輸出に向けた取組が進められている。
- 2.5m物揚場に屋根付き岸壁が整備される場合、クルーズ船のテンドーボートの乗降場所、島内患者の緊急搬送用岸壁としても利用されていることから、副次的な効果も期待される。



2.2 施設配置計画の検討 (5)観光交流施設計画 1)親水緑地の整備

- 地元や観光客の子供達安心して遊ぶことのできる**親水空間**を整備する。
- 親水空間は、飲食や休憩ができるベンチやウッドデッキを設置するものの、現長期構想にあるトイレや売店、駐車スペース等の機能は水産体験施設で補完することとし、親水緑地は、自然のままの海浜を活かした自然海浜として整備する。



親水緑地整備イメージ図(平成13年度 現長期構想)



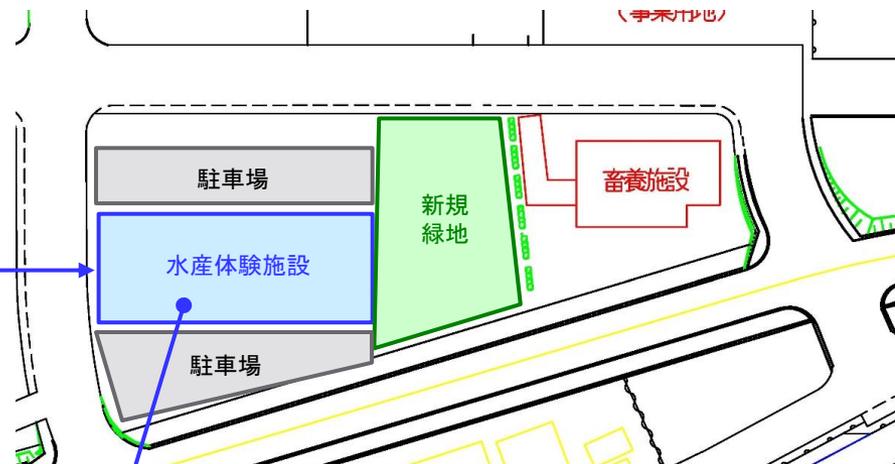
親水緑地整備イメージ図(今回検討)



現在の水遊び場利用状況

2.2 施設配置計画の検討 (5)観光交流施設計画 2)水産体験施設の整備

○タッチプールやウニ剥き体験、昆布加工体験等、観光客や地元住民等が楽しめるスポットとして、水産体験施設の整備を行う。



- ・魚類水槽、ウニ剥き体験、昆布加工体験
- ・漁獲物調理・食事ゾーン
- ・タッチプール、テナント・休憩スペース
- ・歴史・文化展示、磯船乗船体験ゾーン 等

水産体験施設配置イメージ(案)



バーベキュー施設
(苫小牧港港園亭)



水産の歴史(俵詰めされたニシン粕)
(利尻しまじゅうエコミュージアム)



ウニ剥き体験(神居海岸パーク)



ニジマス釣り体験(峯自然園)



花折コンブ体験(鴛泊港緑地)



タッチプール(千歳水族館)

2.2 施設配置計画の検討 (5)観光交流施設計画 3)みなとオアシス情報発信エリアの拡充

- 観光客や島民の交流活動の拠点施設となる旅客ターミナルを中心に、地域の活性化や賑わいを創出するため、情報発信基地としての役割を強化する。
- みなとピアガーデンや北海島まつり等のイベント、町民主体のフェリー観光客の見送りやみなとピアノ等の活動を今後も継続するとともに、Sea級グルメの創作等、交流空間の魅力を高める取り組みにより、賑わいのある空間の創出を図る。
- 島内に約30か所ある自転車で島を巡る人がひと休みできる「利尻サイクルオアシス」に加え、サイクルツーリズムの推進による地域活性化のため、将来的なナショナルサイクルルートへの指定に向けて、サイクリストの受入環境を整備する。



みなとピアノ(フェリーターミナル)



北海島まつり(南荷捌地)



サイクリングロード



島民によるフェリー見送り



みなとピアガーデン(鴛泊港緑地)



利尻サイクルオアシス

3. 鴛泊港の発展方向と空間利用計画

3.1 今後の発展方向と空間利用計画

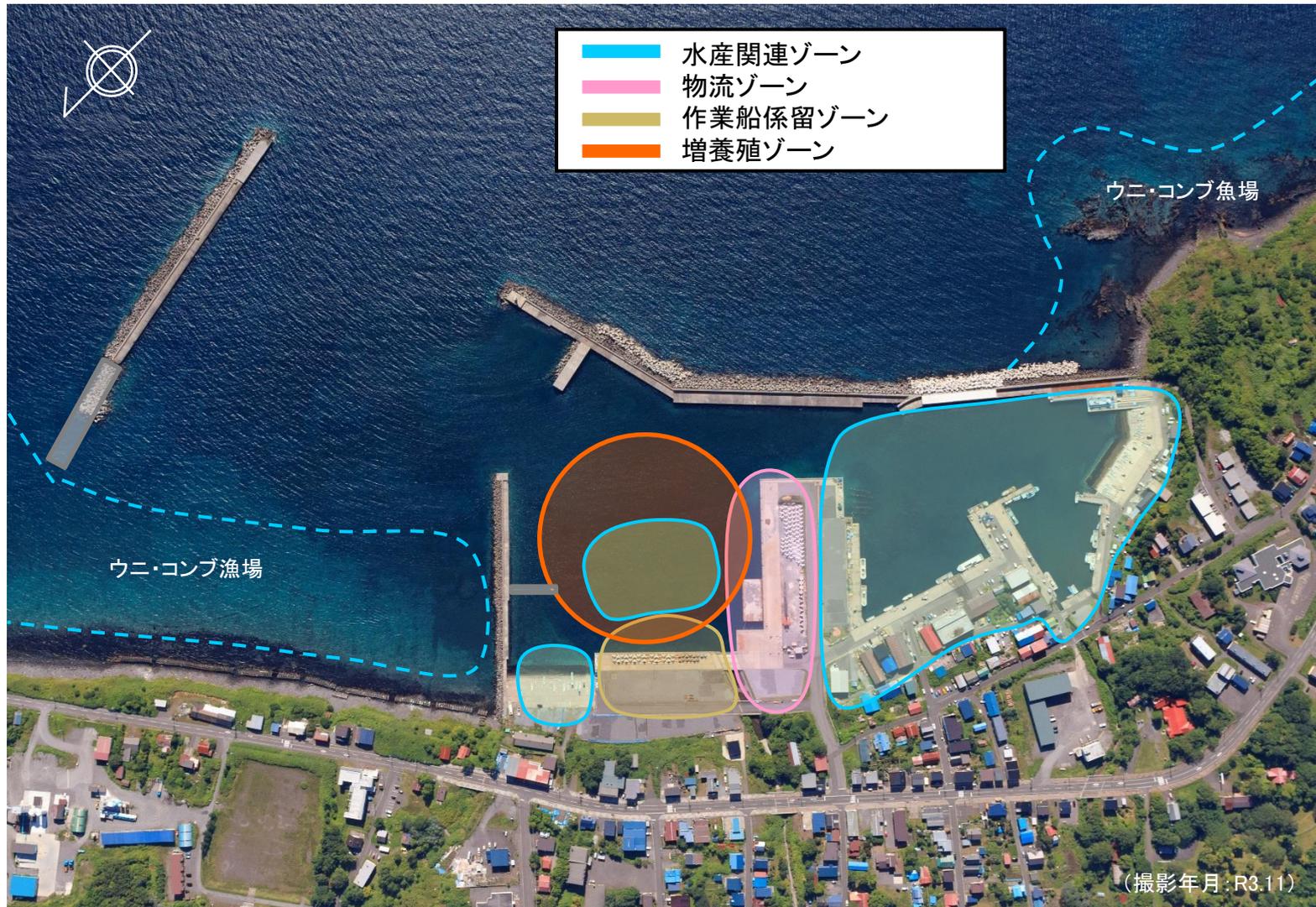
3.1 今後の発展方向と空間利用計画 (1)本港地区 ②全体ゾーニング案

本港地区の導入機能及び発展方向を勘案し、ゾーニング案を以下のとおり設定する。



3.1 今後の発展方向と空間利用計画 (2)鬼脇港区 ②全体ゾーニング案

鬼脇港区の導入機能及び発展方向を勘案し、ゾーニング案を以下のとおり設定する。



4. 鴛泊港長期構想鳥観図

- 4.1 鴛泊港(本港地区)全体版
- 4.2 鴛泊港(本港地区)フェリーターミナル及び事業用地周辺拡大部
- 4.3 鴛泊港(本港地区)屋根付き岸壁拡大版
- 4.4 鴛泊港(鬼脇港区)全体版

4.1 鴛泊港(本港地区)全体版



4.2 鴛泊港(本港地区) フェリーターミナル及び事業用地周辺拡大部





